視覚による言葉の教育

参会者 H: ドーマン先生は、脳障害児を 6 千名から 7 千名も治療なさったと、お聞きしましたが、それは、さきほどの“大きく、はっきり、くり返す”という 3 つのことを基本にされただけでしょうか。それとも、何かほかになさったことが、おありなのでしょうか。

ドーマン: 私たちは、大きく、はっきりとした言葉から始めました。文字ではなく、大きく、はっきりとした言葉から教えたのです。

そして、このこと自体が、視覚というものを開発させるモチベーションになったわけです。それから、文字を与えて、子供の頭脳が発達するにつれて、文字を小さく縮め、普通の大きさになるまでそれを続けたわけです。

けれども、今これから申し上げるようなやり方もあります。それは、文字による方法です。最初、子供の器官を表わした言葉を、文字で与えました。口･耳･頭･手などです。こういう言葉に、子供は一番初めに興味を示しました。

それから次に、お父さん、お母さん、お兄さん、お姉さんという順序で進めます。

こんどは、子供の住んでいる部屋の中のもの、部屋をとりまくものに、その名前を書いたカードを貼りつけます。天井･椅子･机などに貼りつけます。その中で、子供は暮らすわけです。足をそこに乗せてはいけませんよ、といわれたとき、椅子という文字を書いたカードがそれに貼ってあります。子供は、それでだんだんと椅子という文字を理解できるようになっていきます。

耳で聞いて言葉を覚えていくのと同じように、視覚によって言葉を覚えることができるのです。

(「モチベーション 32～35 号)